

佳作

環境と生き物について

六本木中学校 池田 達哉

世界で最近注目されているのは食糧問題、地球温暖化だと思ふ。地球温暖化は様々な生き物に影響を与える。そんな中、人間はそれを意地でも止めようと、国連をはじめいろいろな機関が活動をしている。

先日、英語の授業で見た映画では、スバルバル諸島をピックアップしていた。北極での食物連鎖もよく理解できた。人間のあらゆるものを急激に消費した理由で、人間だけでなく地球上で生きている生き物になんらかの形で影響を及ぼしている。

これは、人間がやってきた罪だ。罪と同時にやらなければならぬ義務がある。つまり、もとの環境に戻すということだ。また、人間が地球においての主役なんかではない。今まで人間が長い年月をかけ文化を築いてきた。これを未来に活かすために歴史がある。同じ過ちを繰り返さずに、文化の中で良いところを見つけ、生活を活かす。このようなことが人間が生きる上での礎となっている。

生き物はいつも人間の影響を受けている。といっても、人間が生まれたのは長い目で見るとほんの最近だ。地球が生まれてから今までを三六五日にしてまとめると、人間が

生まれたのは十二月三十一日だそうだ。地球の後輩にも関わらずこんなでしゃばっていいのか。それが問題だ。生き物は人間にいらだちを感じている。

ただし、世界に貢献していることも多くある。その過程の中で環境を破壊することや生き物への影響を及ぼしている。

例をあげてみると、人間が二酸化炭素などの温室効果ガスを排出し、その影響で地球の平均気温は上昇している。その結果、生き物の住むところなどが変わり、絶滅を危惧されている生き物も年々増えてきている。さらに人間に返ってきている事実もある。北極の氷が溶けて、水面も年々上昇している。だから、海に近く海拔の低い地域は水没してしまう。他にもたくさんさんの事例が報告されていることは確かだ。

こんな中、私たちができることは省エネ、リサイクル、さらにはボランティアなどだ。一人ではたいしたことではないけれども、世界中の人々がしてみればすごい大きなこととなる。私はこのような身近なことから次第に大きなことに挑戦していきたいと思う。学校の変化も大きいので、自分の身のまわりのことが終わったら、生徒会からも声をかけていきたい。

このままでは地球は人間の住める環境ではなくなってしまう。地球の危機を守るために人間が生まれてきたと思う。地球を救うことが人間の使命である。